

集落  
支援助員

地域を支え、住民の生活を守る

多くの地域が抱える高齢化の課題。町では、地域の現状に沿った集落のあり方を模索すべく、国の制度の活用に取り組みました。

集落支援助員は、人口減少及び高齢化の進行が著しい地区の状況把握のほか、新たな地域自治コミュニティ活動を支援することを目的としています。この

制度は国が平成20年に制定し、町では、高齢化が比較的進んでいる下前・折戸地区の2地区に平成30年度から赤石博満さんと内海俊美さんの2人を配属しました。

赤石さんと内海さんは、下前・折戸地区の集落の状況の調査を皮切りに、課題整理、状況把握などを行い、集落のあり方について話し合い、集落の問題を住民と一体となつて解決を図ってきました。

主な業務は、①担当地区の巡回及び状況把握や住民の意見集約に関する業務②担当地区の課題解決及び維持活性化のための具体的方策の検討及び実施に関する業務③地域の情報発信に関する業務④空き家の有効利用及び移住・定住の促進に関する業務⑤地域の課題解決を図ることです。

下前・折戸地区では、高齢化率が50パーセントを超えていて、地域が持続していくための施策に取り組みなければなりません。そのため、これまででは団体・個人から要望などがあ

ば、その内容ごとに町が個別に対応していましたが、現在は集落支援助員が中核となり、町と地域住民が連携して集落の問題に取り組んでいます。

■貢献

下前地区の約300世帯と折戸地区の19世帯を対象に4月から7月末にかけてアンケート調査を実施しました。このアンケートでは、対象となる集落が持っている総合的な「地区力」を調べる目的で、年齢や家族構成、普段の移動手段、持病などの31項目にわたって調査しました。

アンケート結果をもとに、地域の魅力や課題を見つけ、空き家・空き地の対策や高齢者の見守りなど、町内会組織などと一緒に持続可能な集落づくりが始まりました。

初年度の平成30年度には、地区懇談会を年9回開催し、のべ200人以上が参加しました。地区懇談会では、アンケートで判明した課題の具体的な解決策などが話し合われました。

集落点検と地区懇談会では、地域が



抱える問題の一つに食料品店が無く、買い物に不便を感じている住民が多いことが取り上げられ、中泊町特産物直売所「ピュア」の協力を得て、移動販売事業がスタートしました。

当初は移動販売車で地区を巡回しながら販売していましたが、商品を大量に積めないため、品切れが生じたり、

雨天時に商品がぬれたりなどの課題が見つかり、この課題について地区懇談会で話し合った結果、移動展示販売に変更しました。

しかし、展示販売でも品切れが生じることが多々あるため、対策として県の支援を受け、ピユアでは「中泊ピユアお買い物簡単アプリ」の実証試験をスタートさせました。タブレットを使い、欲しい商品を注文すれば、移動販売時に持ってきてもらえる仕組みになっています。

折戸地区では、「災害時の不安」の声が多数あったことから、集落支援員のアドバイスのもと、折戸地区自主防



災会が平成30年度に設立されました。

自主防災会では、青森県出前トーク

を活用した研修会や避難経路図の作成、災害備蓄品の確認などを行い、住民それぞれの防災意識を高め、目的達成のための団結した組織づくりをしました。

また、最大震度6度強の地震が発生し20分後に7メートルの津波が襲来する想定で、避難訓練も実施され、会長のだんまるやつか「臺丸谷優さんは「万が一のときにスムーズに避難できるように、今後でも実施していきたい」と話していました。

今後は、避難訓練などを通して、「互助」の重要性を地区全体で認識し、み



んなが安心して暮らせる地域を目指した活動をしていくそうです。

#### ■次世代へ

赤石さんは、集落支援員になった時に、地域住民と一緒にどのような課題や問題があるのか考え、話し合い、住民から信頼される支援員として課題解決に取り組んでいきたいと考えたそうです。また、今後の下前・折戸地区は、町内会をはじめとする各組織・団体が連携し、「自分たちの地域は自分たちで良くしていく」という気持ちを持ち、地域住民が一丸となって課題に取り組み、解決していったほしいと将来の展望について語りました。

内海さんは、地元である下前・折戸地区で漁業環境が年々厳しくなり、人口減少、少子高齢化も進んで、地元の活気が薄れてきているのを見て、少しでも元気になれるように貢献したいと思い、集落支援員に応募したそうです。



赤石博満さん

住民の立場に立って意見を聞いたり、述べたりするなど地域住民と真摯に向き合い、気軽に会話し、相談できる信頼関係を築くことに重点を置き、下前・折戸地区の課題、問題などの解決に取り組んでいました。

しかし、地区の現状は、想像以上に厳しいことが集落点検で分かり、地域住民でも人口減少・高齢化などを危惧する意見も多く、危機感を感じたと同時に、より一層地域住民と協力して課題に取り組んでいきたいという気持ちになったそうです。

また、折戸地区住民が自主防災組織設立に取り組んだこと、下前地区住民が移動（展示）販売の販売ルート・時刻に自ら係わり取り組んだこと、地区の課題を自分事と捉え取り組みを開始したことが嬉しかったと話していました。



内海俊美さん